

高等学校教員の業務負担に関する

テキスト・マイニング分析

小 柳 達 也¹・石 井 康 夫²
竹 安 大 介³・竹 安 数 博⁴

要旨：近年は特に、中学校や高等学校といった教育現場において、事務的な業務あるいは部活動の指導といった教育課程外の活動、業務が負担となり、教員が心身ともに疲弊している旨の調査結果がみられるようになってきている。そこで、高等学校教員に着目しつつ、彼ら彼女らの業務のなかで負担となっている要因と各要因間の関連を明らかとし、課題となる事象の改善へむけた試行的考察をおこなうことを目的とする研究をおこなった。本研究では、岩手県にある高等学校4校の教員に質問紙調査を実施し、単純集計、テキスト・マイニング分析を実施した。その結果の解釈から、高等学校教員の業務負担となりやすい部活動の指導にはその前段として「やりがい」をもってあたることのできる環境づくりが必要であり、その一方策として、当該部活動分野の専門家やスクールソーシャルワーカーを彼ら彼女らのサポート役として導入、活用することが効果的であろうことについて明らかとなった。

Key Words：高等学校教員、業務負担、部活動指導、専門家、スクールソーシャルワーカー

1. はじめに

近年は特に、中学校や高等学校（以下、高校）といった教育現場において、事務的な業務あるいは部活動（以下、部活）の指導といった教育課程外の活動、業務が負担となり、教員が心身ともに疲弊している旨の調査結果がみられるようになってきている。2014（平成26年）年6月、OECDは国際教員指導環境調査（TALIS: Teaching And Learning International Survey）の結果を発表した。これによると、日本の教員の1週間の勤務時間は53.9時間（平均38.3時間）であり、対象33か国中最も長かった。また、この調査の内訳をもとに各国の平均と日本を比

較することにより、部活指導等の「課外指導」が7.7時間（平均2.1時間）と3倍以上であること、また、「一般事務」では、5.5時間（平均2.9時間）と倍近い時間を費やしていることが分かる。さらに、「授業」は17.7時間であり、平均の19.3時間と比較して少ない。これをひとつの根拠として、わが国の教員の授業時間が短くなる要因の存在が疑われる。一方、ここでふれた教員が担当する業務に関しては、所属校の規模にかかわらず、1人の教員が多数の校務分掌を担当するといった、旧来からの職域特有の規範の存在が無視できない。この校務分掌については、個人の裁量による多少の調整は可能であるものの、とりわけ、大多数の教員が担当する部活の指導に限っては、専門外の部活を担当することや休日割を割いておこなわなければならないこともあり、これが教員の負担になっていることも考えられる。また、これと関連する

¹八戸学院大学人間健康学部講師

²大阪国際大学グローバルビジネス学部教授

³社会福祉士

⁴常葉大学経営学部教授

が、小入羽は、「部活に長時間および高頻度で従事する教員は、短時間・低頻度の教員よりも教科指導や生徒指導の時間が少ない」と指摘している。これについては、個人差の存在も考えられるものの、部活指導の負担が教員に与える影響は、彼ら彼女らが生徒に提供する教育の質と関連することが考えられるため、看過することはできないであろう。また、高校における部活指導は専門性がより強く求められるため、これが担当教員の負担感を高める大きな要因となっていることも予想できる。さらに、2008(平成 20) 年 7 月に閣議決定された「教育振興基本計画」においては、学校体育および運動部活の充実を図るため、外部指導者の積極的な活用を促すことが規定されているが、これをうけ、地区によっては高校外部の専門家、例えば、剣道や柔道の有段者等の導入を進める動きもみられる。同時に、顧問教員が当該分野の専門外である場合は、適任者の選定に苦勞する場合が多い旨の指摘もみられる。このような状況下においては、高校教員が担当する部活において、外部の専門家を活用することにより彼ら彼女らの負担を軽減しようとする仮説から出発する研究的アプローチも必要であろう。しかしながら、現在のところ、これは十分に進展していない。

このような現状や先行研究を吟味し、筆者らは、スクールソーシャルワーカー（以下、SSWr）の活用に着目した。すなわち、部活指導を含む業務遂行過程において、SSWr が高校教員のよき相談相手となり、種々のサポートをおこなうことにより、彼ら彼女らの負担を軽減できるように考えた。SSWr は、主に児童や生徒側の問題を取り扱うことが多いが、文部科学省による「スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領」では、彼ら彼女らの選考にあたっては、児童・生徒だけではなく「保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供」を適切に遂行できることが条件の 1 つとされている。

そこで本研究は、高校教員に着目しつつ、彼ら彼女らの業務上の負担となっている要因と各

要因間の関連を明らかとし、課題となる事象の改善へむけた試行的考察をおこなうことを目的とする。

以下、2. では、高校教員の業務の現状について把握するために実施した質問紙調査の概要と単純集計結果を示した。さらに、3. では、テキスト・マイニング分析結果を示した。そして、4. においては、分析結果の解釈を纏めつつ試行的な考察を試みた。

2. 質問紙調査概要と基礎統計結果

2.1 質問紙調査概要

高校教員の業務のなかで負担となっている要因と各要因間の関連を明らかとし、課題となる事象の改善へむけた試行的考察をおこなうため、無記名による質問紙調査を実施した¹⁾。この質問紙調査の概要は次の通りである²⁾。

- (1) 対象：岩手県内の私立高校 4 校の部活指導担当教員
- (2) 時期：2015（平成 27）年 1 月～3 月
- (3) 方法：留置調査法
- (4) 回収：配布 120、回収 111（回収率 92.5%）、有効 111

2.2 基礎統計結果

以下、主な単純集計結果を示す。

2.2.1 回答者の特性（Q4）

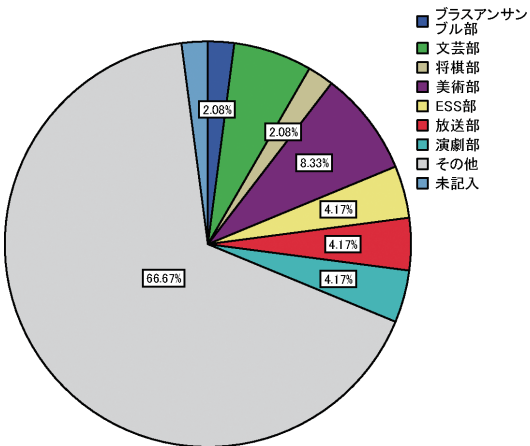
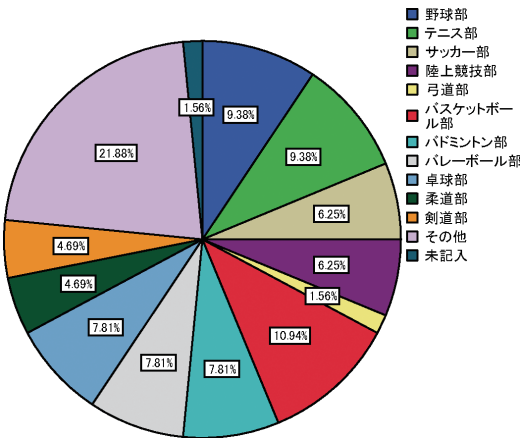
¹⁾ 本研究は、倫理面への配慮のため、質問紙調査の内容や方法を含めて、「平成 25 年度八戸学院大学研究倫理委員会」の審査を経たうえで実施したものである。

²⁾ 質問紙は APPENDIX として文末に付ける。

表 2.1 基礎統計結果の概要

(1) 回答者の属性 (Q4) (%)			⑤ 現在の勤務先における勤続年数 (Q4-5)		
① 性別 (Q4-1)	男性	69.37		1年未満	2.7
	女性	28.83		1～2年目	8.11
	未記入	1.8		3～4年目	8.11
				5～9年目	19.82
② 年齢 (Q4-2)	20-29	10.81	⑥ 部活における職種は？ (Q1-2-2-3)	10年以上	61.26
	30-39	23.42		顧問	77.48
	40-49	40.54		副顧問	21.62
	50-59	19.82		その他	0.9
	60-	4.5	(2) 部活について (2-2-3, 4) (%)		
	未記入	0.9	① 担当している部活は全国大会に出るなどの強豪校ですか？ (Q1-2-2-4)	はい	14.41
③ 役職 (Q4-3)	副校長／教頭	2.7		どちらでもない	14.41
	教務主任／学年主任	12.61		いいえ	71.17
	教諭	69.37		未記入	0
	講師	11.71	② 担当している部活は活発ですか？ (Q1-2-2-5)	はい	52.94
	実習助手	0.9		どちらでもない	31.76
	その他	1.8		いいえ	13.53
	未記入	0.9		未記入	1.76
④ 教員としての勤続年数 (Q4-4)	1年未満	0.9			
	1～2年目	7.21			
	3～4年目	8.11			
	5～9年目	18.92			
	10年以上	64.86			

2.2.2 被験者が顧問または副顧問等として所属する部活



2.2.3 日常業務にかかわる意識・心情 (Q2)

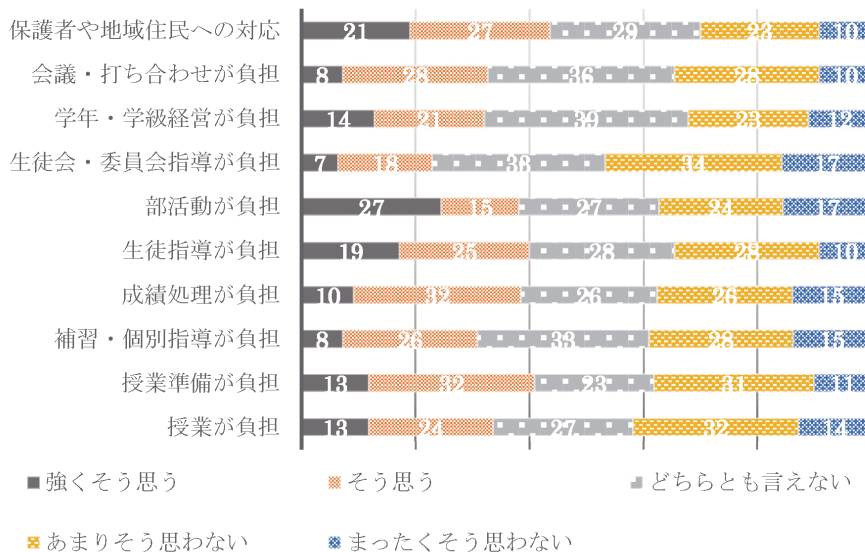


図 2.3 日常業務にかかわる心情

2.2.4 部活指導にかかわる心情 (Q3)

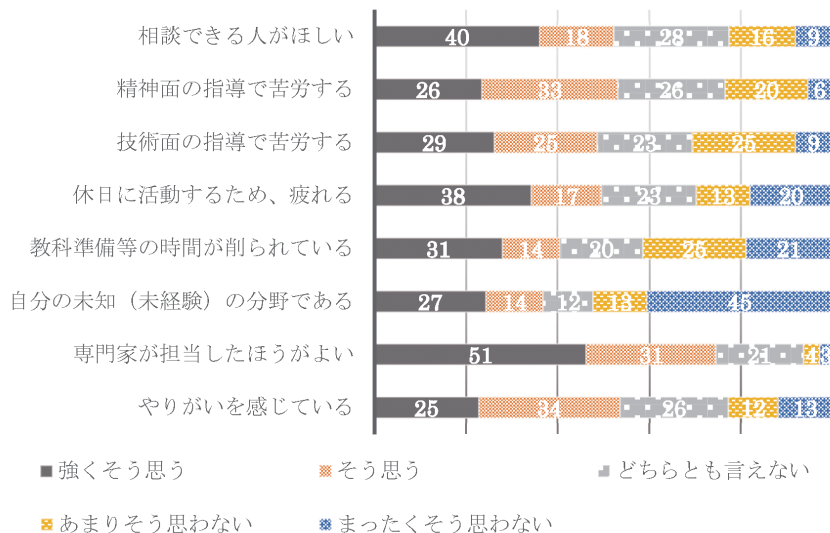


図 2.4 部活指導にかかわる心情

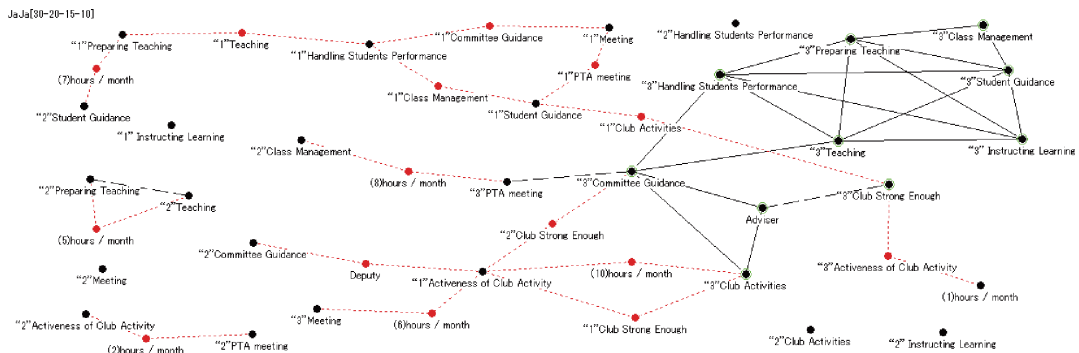


図 3.1 部活の状況と日常業務にかかわる負担感

3. テキスト・マイニングによる分析³⁾

本研究では、基礎統計による分析を踏まえつつ、テキスト・マイニングにより、各アイテム間の関連性を体系的に分析した。その際の方法としては、Key Graph を用いて各アイテム・カテゴリ間の評価構造を総合的に可視化する分析をおこなった。Key Graph は、従来のテキスト・マイニングツールでは困難であった文章構成のキーワードの抽出がおこなえる手法である。すなわち、単語の「出現頻度」と「共起関係」を基にグラフを生成し、可視化してキーワードを抽出するための解析手法である。また、単語の頻度集計だけでは得られない新たな仮説や知見を見つけ出すこと、テキストデータの文脈をノードとリンクによるネットワーク図で可視化することが可能である。さらに、共起関係の計算式を変えたり、ノードとリンクの総数を調整してグラフを詳細化したり、抽象度を高めたりすること、総合的な評価構造の把握と知見抽出の分析作業を容易におこなうことも可能である。

今回の分析で使用した共起指標は、関連性の

強い言葉をクラスター化し、クラスターとクラスターを結びつけるキーワードを探索するアルゴリズムである。この性質により、仮に低頻度の単語であっても重要な単語であれば抽出されることが期待できる。ここでは、Jaccard 係数と共起確率を用いて各アイテム・カテゴリ間の共起関係を分析した。

なお、Q2 および Q3 における 5 段階の評定尺度は、データ数等を考慮し、項目間の関連性を見易くするため、3 段階に変換して分析した。

3.1 部活の状況と日常業務にかかわる負担感 (Q1-2 & Q2)

ここでは、Q1-2「部活の状況」と Q2「日常業務にかかわる負担感」をあわせて分析した。共起計算に関しては、Jaccard 係数を用いて各アイテム・カテゴリ間の共起関係を分析した。

図 3.1 からは、結びつきの強い 1 つの明確なクラスター、そして、やや結びつきの強い 2 つのクラスターが識別できた。明確なクラスターから「部活が活発でない」「(担当する部活が) 強くない」「(担当する部活における役割が) 顧問」は「生徒会・委員会指導に負担を感じていない」という言葉との共起度が高い。さらに、「生徒会・委員会指導に負担を感じていない」という言葉は「授業に負担を感じていない」「成績処理に負担を感じていない」などの言葉との共起度が高いことが分かる。すなわち、部活が活

³⁾ 本研究におけるテキスト・マイニング分析の際、質問紙にある各々の「言葉」の意味する内容が変わらないよう細心の注意をはらいつつ、端的にしたい場合や分析方法の性格上やむを得ない場合等、必要に応じて別の語句に変換処理をしている。

発でなく、強豪校でもでない高校の部活顧問教員は、日常業務にあまり負担を感じていないことが分かる。また、左上のやや明確なクラスターにおいて、「部活が活発である」という言葉は「生徒指導が負担である」という言葉とやや共起度が高く、この言葉は「学年・学級経営が負担である」などと共起度がやや強いことが分かる。

これらを勘案してみると、日常業務に負担を感じている高校教員は、多くの業務でも同様の負担を感じているという項目とやや共起度が高いことが分かる。特に、「成績処理」に負担を感じている高校教員は、「授業」「生徒会・委員会指導」「学年・学級経営」にも負担を感じているという項目と共起度がやや高いことが分かる。

3.2 日常業務にかかわる負担感 (Q2)

ここでは、「日常業務にかかわる負担感」の各項目間の関連性を分析した。共起計算に関しては、共起確率を用いて各アイテム・カテゴリー間の共起関係を分析した。

図 3.2 からは、2 つの結びつきの強いクラスターを識別することができた。

上側のクラスターから「部活に負担を感じている」という言葉は、「学年・学級経営が負担である」「生徒指導が負担である」「授業が負担

である」「授業準備が負担である」などの学校における「日常業務に負担を感じている」という言葉との共起度が高いことが分かる。また、下側のクラスターから「部活指導に負担を感じていない」という言葉は、「授業に負担を感じていない」「生徒会・委員会指導に負担を感じていない」という言葉との共起度が高く、これらの言葉はそれぞれ「生徒指導に負担を感じていない」「授業準備に負担を感じていない」「成績処理に負担を感じていない」「学習指導に負担を感じていない」といった言葉との共起度が高いことが分かる。

これらを勘案してみると、高校教員は部活指導に負担を感じている場合、他の日常業務にも負担を感じており、翻り、部活指導に負担を感じていない場合には他の日常業務にも負担を感じていないことが分かる。

3.3 部活指導にかかわる心情 (Q3)

ここでは、「部活指導にかかわる心情」に関して、項目間の関連性を分析した。その際の方法として、共起確率を用いて各アイテム・カテゴリ間の共起関係を分析した。

図 3.3 からは、1 つの結びつきの強いクラスターが識別できた。「(部活指導に) やりがいを感じる」という言葉は、「(部活指導は、当該分

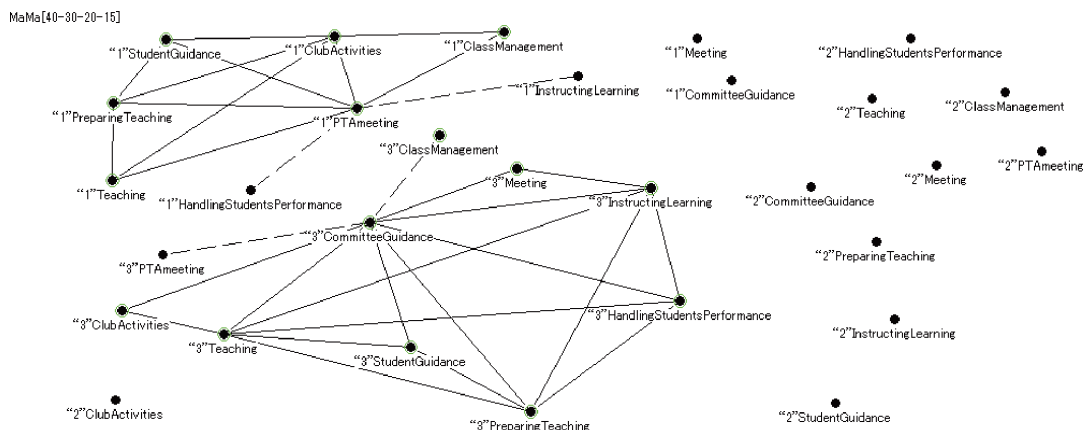


図3.2 日常業務にかかわる負担感

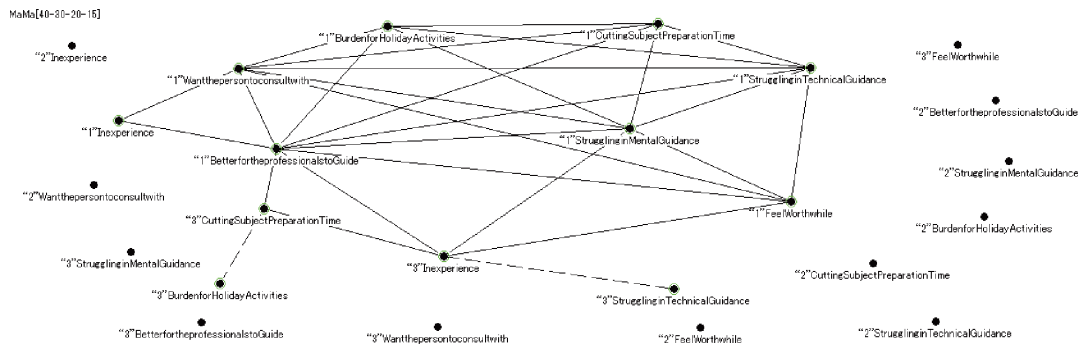


図 3.3 部活指導にかかわる心情

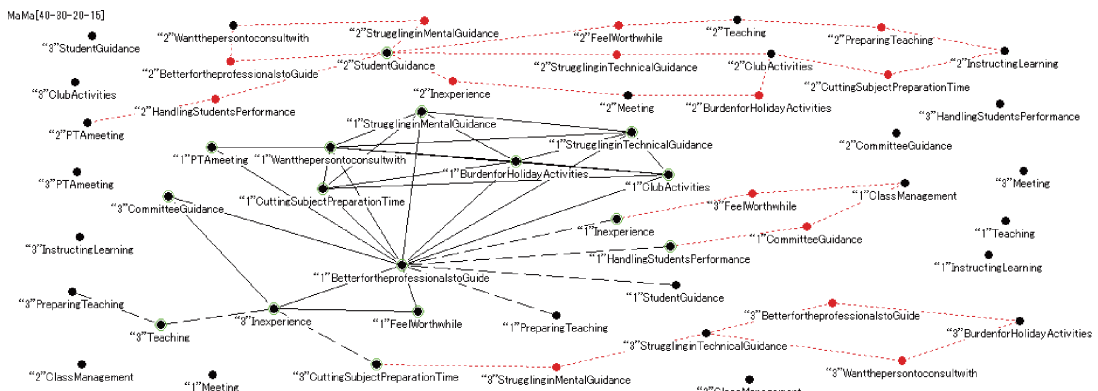


図 3.4 日常業務にかかわる負担感と部活指導にかかわる心情

野の) 専門家が担当したほうがよい」「(部活指導において) 相談できる人が欲しい」「(部活指導において) 技術面の指導に苦勞している」「(部活指導において) 精神面の指導に苦勞している」「(担当している部活が) 未経験の分野ではない」といった言葉との共起度が高い。ここからは、「(部活指導に) やりがい」を感じる場合においても、部活指導そのものを含むいくつかの業務において負担感を感じていることが分かる。また、「(部活指導は、当該分野の) 専門家が担当したほうがよい」「(部活指導において) 技術面の指導に苦勞している」と「(部活指導において) 精神面の指導に苦勞している」「(部活指導において) 相談できる人が欲しい」「休日の部活指導が負担」「(担当している部活が) 未経験の分野である」「部活指導に追われ授業準備等の時

間が削られる」「(部活指導に) やりがいを感じる」という言葉との共起度が高い。

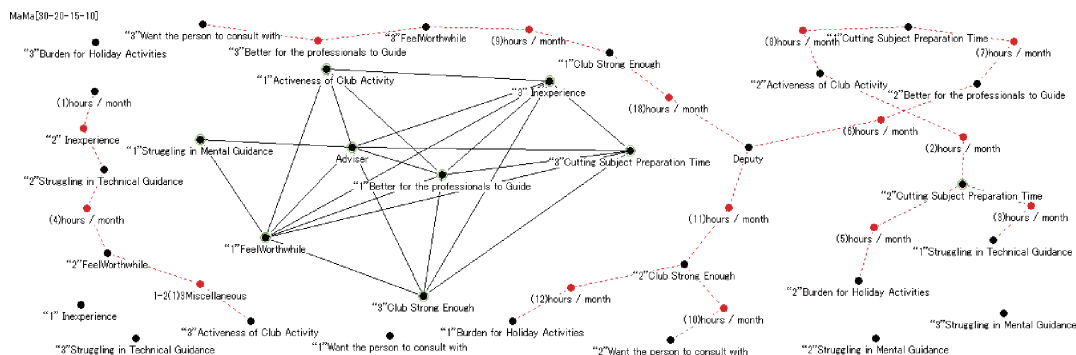
これらを勘案してみると、部活指導を当該分野の専門家や相談できる人からのサポートをうけることにより、高校教員の部活指導への「やりがい」を高める可能性が低くないこと、部活指導にかかわる負担感の軽減に寄与する可能性も低くないことが分かる。

3.4 日常業務にかかわる負担感と部活指導にかかわる心情 (Q2 & Q3)

ここでは、「日常業務にかかわる負担感」と「部活指導にかかわる心情」をあわせて分析した。その際の方法として、共起確率を用いて各アイテム・カテゴリー間の共起関係を分析した。

図 3.4 からは, 1つの大きな結びつきの強い

図 3.5 からは、1 つの大きな結びつきの強いクラスターを識別することができる。「(部活指導へ) やりがいを感じている」は、「(担当している) 部活が活発」「(部活指導は当該分野の) 専門家が担当したほうがよい」「(部活指導において) 精神的な指導に苦勞している」「(担当している部活が) 未経験でない」「(担当する部活における役割が) 顧問」と共起度が高い。また、「(担当する部活が) 強くない」「部活で教科準備時間が削られない」という言葉との共起度も高いが、全体的に観て、「(部活指導に) やりがい」を感じている場合においても部活指導そのものに苦勞していること、当該分野の専門家からのサポートを望んでいる場合が少なくないことが分かる。



3.6 最近の体調 (Q4-15,16,17)

ここでは、共起確率を用いて各アイテム・カテゴリー間の共起関係を分析した。

図 3.6 からは、1 つの結びつきの強いクラスターが識別できる。この図からは、「体調のよさ」と「仕事の順調度」と「毎日の充実度」のそれぞれのレベルはお互いにともに共起度が高く、それぞれ密接な関係があることが分かる。そのため、体調の管理は、仕事の充実度や「(部活指導への) やりがい」に影響を与える可能性があることが分かる。

3.7 日常業務にかかわる負担感と被験者属性 (Q2 & Q4-1~4-5 & Q4-7~4-8)

ここでは、日常業務にかかわる負担感と被験者属性をあわせて分析した。その際の方法とし

て、Jaccard 係数を用いて各アイテム・カテゴリーの共起関係を分析した。

図 3.7 からは、上下左右 4 つのクラスターを識別することができる。中心部の明確なクラスターにおいて、「男性」「教諭」「現在の学校で 5-10 年勤務」「経験年数 5-10 年」「既婚」と共起度が高く、「部活が活発」であるとやや共起度が高い。また、「部活が活発である」はその右の「(日常業務において) 学習指導に負担を感じている」とやや結びつきが強く、この言葉は「学年・学級経営に負担を感じる」「授業に負担を感じる」「授業準備に負担を感じる」などの日常業務に負担を感じている言葉群との結びつきがやや強い。すなわち、「部活が活発である」という言葉は、「多くの日常業務に負担を感じている」というクラスターとを繋ぐ

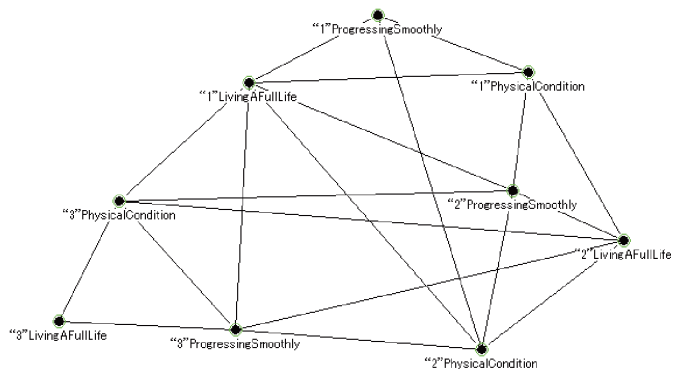
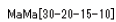


図 3.6 最近の体調

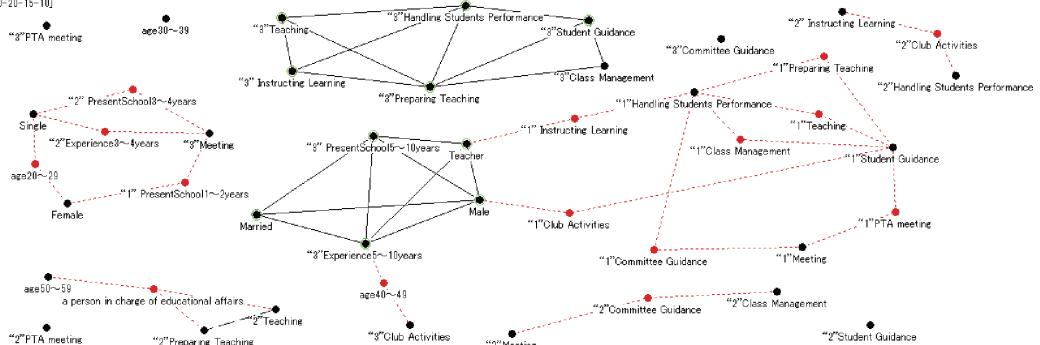


図 3.7 日常業務にかかわる負担感と被験者属性

キーワードとなっている。そして、日常業務に負担を感じているという言葉は、個々の業務に負担を感じているという言葉との共起度がやや高い。また、上側の明確なクラスターは、日常業務に負担を感じていないという言葉のクラスターである。個々の業務に負担を感じない場合は、他の多くの業務においても負担を感じていないことが分かる。また、左上のクラスターは、20歳代で独身の女性教員で教育経験も浅く「会議・打ち合わせに負担を感じていない」という言葉群のクラスターである。さらに、左下のクラスターは、50歳代の教務主任で「授業に対する負担感」「授業準備に対する負担感」に関しては共に「どちらともいえない」と考えていることが分かる。

これらを勘案してみると、役職や性別、教育歴等により、日常業務に関する負担感が異なってくるのが分かる。

3.8 部活指導にかかわる心情と被験者属性 (Q3 & Q4-1~4-5 & Q4-7~4-8)

ここでは、部活指導にかかわる心情と被験者属性をあわせて分析した。その際の方法として、Jaccard 係数を用いて各アイテム・カテゴリーの共起関係を分析した。

図 3.8 からは、上側の結びつきの強い明確なクラスターと下側のやや結びつきの強いクラスターを識別することができる。

上側のクラスターにおける「(部活指導に) やりがいを感じる」という言葉と「男性」「既婚」「勤務先勤続年数5-10年」「教員としての勤続年数5-10年」との共起度が高く、「経験はそれほどない」とはやや共起度が高い。ある程度職場に長くいる既婚男性は、「(部活指導に) やりがい」を感じる場合の多いことが分かる。また、「(部活指導は、当該分野の) 専門家が担当したほうがよい」は、「教員」「勤務先勤続年数5-10年」「教員としての勤続年数5-10年」と共起度が高く、「授業準備が削減される」とやや共起度が高いことが分かる。このことは、「(部活指導に) やりがい」を感じている中堅の高校教員においても、部活指導等の阻害要因を解消するために当該分野の専門家からのサポートを望んでいる人が多いことを示している。

4. 分析結果の総括および考察

本研究では、高校教員の業務負担となっている要因と各要因間の関連を明らかにするために上述した調査・分析を実施した。その結果、主に次のことが明らかとなった。

(1) 高校教員において、日常業務に負担を感じている人は、種々の業務において負担を感じていることが確認されたが、とりわけ、「成績処理」に負担を感じている場合、「授業」「生徒会・委員会指導」「学年・学級経営」にも負

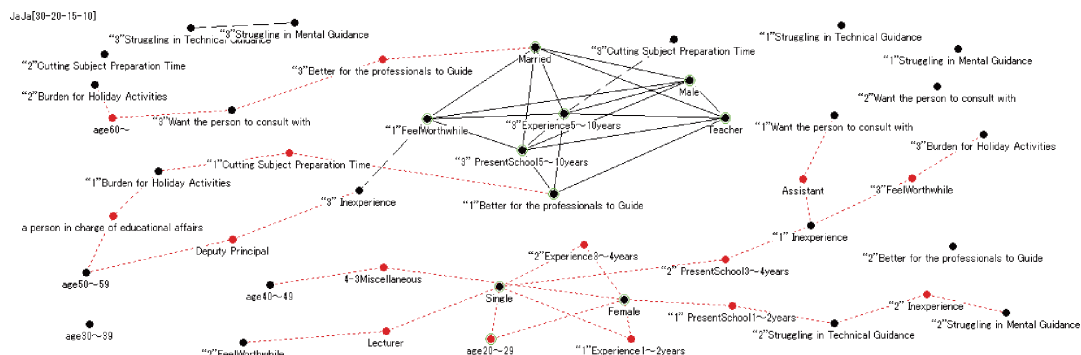


図 3.8 部活指導にかかわる心情と被験者属性

担を感じていることが多いことについて明らかとなった。

(2) 高校教員において、「部活指導」に負担を感じている場合、他の日常業務にも負担を感じている場合が多く、逆に、「部活指導」に負担を感じていない場合、日常業務に負担を感じていないことが多いことについて明らかとなった。

(3) 高校教員において、体調の管理は、仕事の充実度や「(部活指導への) やりがい」に比較的大きな影響を与えることが多いことについて明らかとなった。

(4) 高校教員において、「(部活指導は、当該分野の) 専門家が担当したほうがよい」と考えている人は、「勤務先勤続年数 5-10 年」「教員としての勤続年数 5-10 年」「(部活指導において) 相談できる人が欲しい」「(部活指導に追われ) 授業準備が削減される」といった立場であったり、考えをもっていることが多く、「(部活指導への) やりがい」を感じている中堅教員においても、部活指導等の阻害要因を解消するために、当該分野の専門家からのサポートを望んでいることが多いことについて明らかとなった。

(5) 高校教員において、部活指導に「やりがい」を感じている場合であっても、部活指導そのものに苦労も感じている場合、当該分野の専門家からのサポートを望んでいることの多いことについて明らかとなった。

このように分析結果を解釈したが、つまりはこれを根拠として、高校教員の多くは部活指導で苦労している場合において、当該分野の専門家や相談できる人からのサポートを少なからず望んでいること、様々な要因を繋ぐキーワードが「(部活指導への) やりがい」の程度であることが主としていえる。また、高校における部活運営においては、当該分野の専門家や相談できる人からのサポート体制を構築することにより、教員の部活指導にかかわる負担感の軽減に寄与することが期待できよう。さらに、その延

長的解釈ではあるが、既存の文献の吟味より出発したこの調査・分析の結果から導きだせる一方策として、今後は、高校の部活指導における当該分野の専門家の導入および活用、また、教育現場における総合的な相談機能をもつ SSWr の導入および活用を高校運営に活かすことが肝要ともいえよう。端的ではあるが、これを調査・分析結果に対する考察としたい。

5. おわりに

高校教員は、所属校の日常行業務や部活指導等に関して、それぞれ多くの負担感を有しているため、これらを軽減するための外部からの専門家派遣や SSWr の活用といった解決策は有効と考えられる。

また、今回採用したテキスト・マイニング分析の対象は、通常の質問紙における自由回答結果に対するものではなく、一般的な質問紙調査の結果に関するものである。つまり、各セルに入力され構造化されたデータに着目してテキスト・マイニングを実施している。本研究は、この方法を採用し、多様な観点から各アイテム・カテゴリーの組みあわせを適切に把握できるよう研究がデザインされている。すなわち、多重応答分析がアイテム数を N 個としたとき、2 次元平面上で $2N$ 個の情報が図示されるのに対して、Key Graph では N 個のノードの間にある $N(N-1)/2$ の組みあわせのなかでさらに関連性の強さを示すことができるため、多重応答分析よりも多くの情報を表示することができるが、本研究ではこれに期待し分析をおこなった。その結果、基礎統計や多重応答分析だけでは明確化できなかったアイテム・カテゴリー間の詳細な関連性を可視化して総合的に明示することに成功したといえる。

このため、今後ともさらに多くの事例において本研究で用いた手法を採用し、多くの有用なデータを集積しながら、より効果的な分析アプローチ手法を追求していきたい。一方で、今後

に残された研究課題としては、今回得られた知見と課題解決を実現するため、より実態に即した詳細なアイテム・カテゴリー間の関連性の分析と具体的な課題解決策を提示する必要があるものと考えられる。

謝辞 本研究に際して、質問紙調査にご協力下さった皆様に心より御礼申し上げます。

引用・参考文献

- 文部科学省 (2013) 「スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領」 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2013/10/21/1340480_05.pdf#search='%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%82%B:D%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%AB%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AB%E3%83%BC%E6%B4%BB%E7%94%A8%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E5%AE%9F%E6%96%BD%E8%A6%81%E9%A0%98', 2015.9.1).
- 名城健二 (2012) 「うるま市におけるスクールソーシャルワーカー活用の実態と課題」『地域研究』 pp. 53-61.
- 文部科学省 (2012) 「スクールソーシャルワーカー実践活動事例集」 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1340480.htm, 2015.9.1).
- 小入羽秀敬 (2011) 「教員の業務負担と学校組織開発に関する分析 ― 部活動に着目して ―」『国立教育政策研究所紀要』 140, pp. 181-193.
- 米川和雄 (2011) 「スクールソーシャルワーカーの教職員メンタルヘルス支援の役割」『久留米大学文学部紀要 (社会福祉学科編)』 10・11 (合併号), pp. 7-15.
- 佐藤広崇・金子智栄子 (2010) 「学校現場に求められる援助について ― スクールソーシャルワーカーに期待される役割と課題 ―」『文京学院大学人間学部研究紀要』 12, pp. 223-236.
- ベネッセ教育研究開発センター (2010) 「第 5 回 学習指導基本調査 (小学校・中学校版)」 (http://benesse.jp/berd/center/open/report/shidou_kihon5/sc_hon/index.html, 2015.9.1).
- ベネッセ教育研究開発センター (2010) 「第 5 回 学習指導基本調査 (高校版)」 (http://benesse.jp/berd/center/open/report/shidou_kihon5/kou_hon/index.html, 2015.9.1).
- 鈴木庸裕 (2009) 「スクールソーシャルワーカーの業務と学校支援 (1)」『福島大学総合教育研究センター紀要』 7, pp. 17-24.
- 鈴木庸裕・鹿島丈夫・宮地さつき (2009) 「スクールソーシャルワーカーの業務と学校支援 (2)」『福島大学総合教育研究センター紀要』 7, pp. 35-42.
- 文部科学省 (2008) 「部活動顧問教諭 (中学校) の活動状況について」 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/042/siryo/attach/1261242.htm, 2015.9.1).
- 日本社会福祉士会倫理委員会編 (2009) 『改訂社会福祉士の倫理 ― 倫理綱領実践ガイドブック ―』 中央法規出版.

APPENDIX アンケート調査票

■高校における部活動に関するアンケート調査(部活動を担当されている先生にお願いいたします)

※本アンケート結果は論文作成のために統計的に処理・分析します。個人データが公開されることはありません。

1. あなたの高校について該当するものに○をつけてください。(注 () 内はご記入ください。)

1	①私立	②公立	③商業	④その他 ()
2	①普通科	②工業	③商業	④その他 ()
(1) 担当している部活動について○をつけてください。				
運動部	① 野球部 ② テニス部 ③ ラグビー部 ④ サッカー部 ⑤ 陸上競技部 ⑥ ホッケー部 ⑦ アーチェリー部 ⑧ ゴルフ部 ⑨ 弓道部 ⑩ 馬術部 ⑪ バスケットボール部 ⑫ バドミントン部 ⑬ 器械体操部 ⑭ バレーボール部 ⑮ 卓球部 ⑯ 柔道部 ⑰ 剣道部 ⑱ 山岳部 ⑲ スキー部 ⑳ 水泳部 ㉑ その他 ()			
文化部	① 人文科学部 ② 研究部 ③ 生物研究部 ④ 化学研究部 ⑤ 物理研究部 ⑥ 数学研究部 ⑦ プラスアンサンプル部 ⑧ 器楽部 ⑨ 文芸部 ⑩ 特棋部 ⑪ 美術部 ⑫ 書道部 ⑬ 鉄道研究部 ⑭ ESS 部 ⑮ 新聞部 ⑯ 放送部 ⑰ クラブシタ同好会 ⑱ 演劇部 ⑲ 弁論部 ⑳ 写真部 ㉑ 無線部 ㉒ 映画研究部 ㉓ その他 ()			
(2) 部活における職権について○をつけてください。				
3	①顧問	②副顧問	③その他 ()	
担当している部活動は全国大会に出るなどの強豪校ですか？				
4	①はい	②どちらともいえない	③いいえ	
担当している部活動は廃部ですか？				
5	①はい	②どちらともいえない	③いいえ	
部活動の時間は月何時間ほどですか？(移動時間含む)				
6	月 ()	時間 ()	時間 ()	時間 ()

2. あなたの「日常業務にかかわる心情」についてお伺いします。以下の質問文に対して、あてはまるもの1つに○をつけてください。(注: () 内は下線部の補足説明)

1	2	3	4	5
強く思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	まったく そう思わない

1.	日々の授業が負担である。(正規時間内の教科・実験・実習等を含む)	1	2	3	4	5
2.	授業準備が負担である。(指導案作成、教材研究・作成、打ち合わせ等の準備など)	1	2	3	4	5
3.	学習指導が負担である。(授業時間外の補修、個別指導など)	1	2	3	4	5
4.	成績処理が負担である。(試験問題作成、採点、評価、通知表記入等)	1	2	3	4	5
5.	生徒指導が負担である。(個別の面談、進路指導、生活相談、その他、問題を抱えた生徒の指導など)	1	2	3	4	5
6.	部活動が負担である。(部活動の指導、対外試合の引率など)	1	2	3	4	5
7.	生徒会・委員会指導が負担である	1	2	3	4	5
8.	進路指導が負担である。(ポータルーム、学年、学級通信、名簿作成など)	1	2	3	4	5
9.	会議・打ち合わせが負担である。(職員会議、学年会、教員同士の打ち合わせなど)	1	2	3	4	5
10.	父兄や地域住民への対応が負担である。(父兄面談、地域巡回など)	1	2	3	4	5

3. あなたの「部活動指導にかかわる心情」についてお伺いします。以下の質問文に対して、あてはまるもの1つに○をつけてください。(1～5の区分は同上)

1.	部活動指導に、やりがいを感じている。	1	2	3	4	5
2.	部活動指導はしたほうがよい。	1	2	3	4	5
3.	担当している部は、自分の未知(未経験)の分野である。	1	2	3	4	5
4.	部活動指導に追われ、教科準備等の時間が削られている。	1	2	3	4	5
5.	部活動指導で休日に活動するため、疲れる。	1	2	3	4	5
6.	部活動指導では、部員の技術面の指導で苦労する。	1	2	3	4	5
7.	部活動指導では、部員の精神面の指導で苦労する。	1	2	3	4	5
8.	部活動指導に関して、相談できる人がほしい。	1	2	3	4	5

4. あなた自身について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1	性別	①男性	②女性				
2	年齢	③20代	④30代	⑤40代	⑥50代	⑦60代以上	
3	役職	⑧校長	⑨副校長／教頭	⑩教務主任／学年主任等	⑪教諭	⑫講師	⑬実習助手 ⑭その他 ()
4	教員としての勤続年数	⑮1年未満	⑯1～2年	⑰3～4年	⑱5～9年	⑲10年以上	
5	現在の勤務先における勤続年数	⑮1年未満	⑯1～2年	⑰3～4年	⑱5～9年	⑲10年以上	
6	血液型	⑳A型	㉑B型	㉒O型	㉓AB型	㉔不明	
7	結婚されていますか？	㉕独身	㉖既婚				
8	お子様の人数	㉗社会人(含結婚した人) ()人	㉘大学生 ()人	㉙高校生 ()人	㉚中学生 ()人	㉛小学生 ()人	㉜幼稚園未満 ()人 ⑦無し
9	ものごとに対して積極的ですか？消極的ですか？	㉝積極的	㉞どちらともいえない	㉟消極的			
10	一人でいるのは好きですか？	㊱非常にそう思う	㊲ややそう思う	㊳どちらともいえない	㊴あまりそう思わない	㊵全くそう思わない	
11	休日の過ごし方は？	㊶アウトドア派	㊷インドア派	㊸どちらともいえない			
12	一番大切と思うのを一つ選んでください	㊹愛情	㊺お金	㊻名誉	㊼衣食住	㊽自己実現	㊾その他 ()
13	兄弟はいますか？	㊿いる	㊿いない				
14	兄弟がいる場合の関係	㊿長男・長女	㊿①と③の間	㊿末っ子			
(1) あなた自身の最近の状態について							
		㊿非常に良い	㊿良い	㊿普通	㊿あまり良くない	㊿良くない	
15	最近の体調は？	㊿	㊿	㊿	㊿	㊿	
16	仕事(勉強・家事等)は順調にはかどっていますか？	㊿	㊿	㊿	㊿	㊿	
17	毎日が充実していますか？	㊿	㊿	㊿	㊿	㊿	

質問は以上です。ご協力頂き、誠にありがとうございました。
記入後のアンケート用紙は、「アンケート用紙回収ボックス」へご提出ください。
※本回収ボックスは、プライバシーの配慮のため、鍵をしております。